

水泳ニツポン・ 中期計画2017-2024

(2018年度 進捗報告)



センターポールに日の丸を!



2019年6月

公益財団法人日本水泳連盟

水泳ニッポン・中期計画2017-2024 要旨

ドリームプロジェクト2020

ドリームプロジェクト2020策定
アジア選手権東京大会開催

2012 2016

水泳ニッポン・中期計画2017-2024

中期計画2017-2024策定
パンパシ選手権東京大会開催
東京五輪開催
世界選手権福岡大会開催

2017 2018 2020 2021

水泳ニッポン・新時代構想

公益財団法人日本水泳連盟創立100周年

2024

①「する」「みる」「ささえる」水泳ファミリーの拡大

- ・日本代表の強化推進による水泳人気の拡大
- ・競技者、指導者、審判、ファン、愛好者の拡大

【ポイント1】
「第2期スポーツ基本計画」に基づき策定

③組織基盤の強化

- ・幅広い分野からの有能な人材の積極的な登用
- ・若手を中心とした人材育成

②「泳げない子供・大人」を減らす環境整備

- ・地域内温水プール拠点化構想の推進
- ・安全をより重視した学校体育(水泳授業)の充実

【ポイント2】
「理念」「使命」「行動指針」を明文化

④データベースの再構築

- ・登録、エントリー、課金記録管理の改善
- ・2次利用による次世代収益基盤の確立

センターポールに日の丸を！

競技力向上に努め、センターポールに日の丸を掲げ、人々に勇気と希望を与える。



国民皆泳

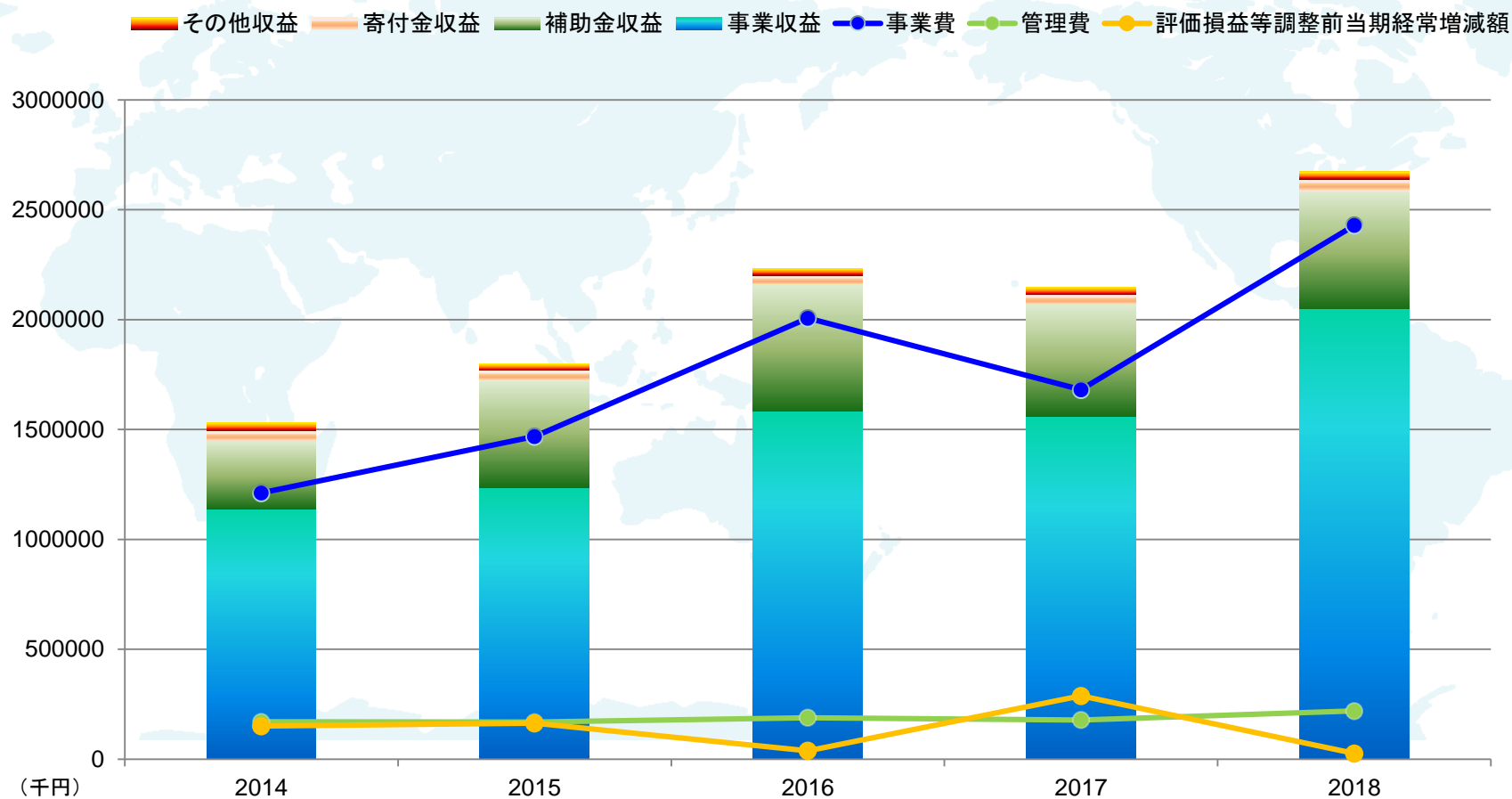
水泳の普及に努め、国民皆泳を実現し、人々の健康保持・増進と、水難事故防止に貢献する。

【ポイント3】 4戦略+8アクションプランで構成

財務状況

2018年度財務実績 (単位:百万円)

■ 事業収益 2,051	■ 補助金収益 535	■ 寄付金収益 52	■ その他収益 35	■ 収入合計 2,673
■ 事業費 2,428	■ 管理費 219	■ 支出合計 2,648	■ 評価損益等調整前当期経常増減額 25	



【1】日本代表強化：①競泳

【戦略2017①】

2020

2024

目標

- ①複数の金メダル獲得、10個以上のメダル獲得
- ②29種目以上の入賞

- ①複数の金メダル獲得、10個以上のメダル獲得

2018年度 主要大会	金	銀	銅	総括
パンパシフィック 選手権	6	7	10	パンパシフィック選手権・アジア大会では、多くの選手が活躍し、目標としていた「チーム力」の向上がみられた。 世界選手権(25m)では、メダル数は目標を下回るも、瀬戸選手が世界新記録を樹立。
アジア大会	19	20	13	
世界選手権 (25m)	2	1	5	



【1】日本代表強化：②飛込

【戦略2017①】

2020

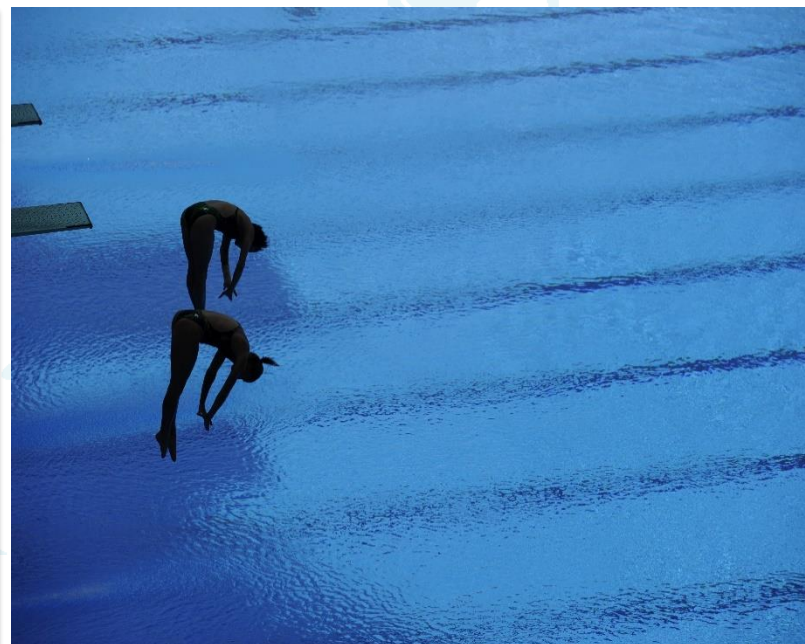
2024

目標

①女子高飛込メダル獲得
②シンクロナイズド3種目入賞(女子高飛込、男子飛板飛込、女子飛板飛込)

①女子高飛込以外の他個人種目メダル争い
②シンクロナイズド入賞及びメダル争い

2018年度 主要大会	金	銀	銅	総括
アジア大会	0	0	1	アジア大会およびワールドシリーズ相模原大会では、それぞれ銅メダル1つにとどまり、複数種目のメダル獲得ならず。全体的な底上げが急務。
ワールドシリーズ 相模原大会	0	0	1	
世界ジュニア 選手権	0	0	2	次世代強化としての世界ジュニア選手権では、銅メダル2つを獲得。



【1】日本代表強化：③水球

【戦略2017①】

2020

2024

目標

予選リーグ突破～メダル獲得挑戦

ベスト8進出～メダル獲得

2018年度 主要大会	金	銀	銅	総括
ワールドリーグ インターコンチネ ンタルカップ	0	0	1	ワールドリーグインター コンチネンタルカップで は、男子が銅を獲得し、 男女ともスーパーファ イナル進出(男子ベスト 4)。アジア大会では、 男女とも目標を達成で きず。
アジア大会	0	1	1	
アジアジュニア 選手権	1	1	0	次世代強化としてのア ジアジュニア選手権で は、男子金・女子銀。



【1】日本代表強化：④AS

【戦略2017①】

2020

2024

目標

デュエット、チーム 銀メダル獲得

メダル獲得

2018年度 主要大会	金	銀	銅	総括
アジア大会	0	2	0	アジア大会では銀2個を 獲得したが、中国との 点差が前回大会よりも 広がったことが課題。
アメリカオープン	0	3	4	次世代強化としてのア メリカオープンでは、B チームが全種目でメダ ル獲得。世界ジュニア
世界ジュニア 選手権	0	0	8	選手権では、テクニカ ルデュエットを除く全種 目で銅メダルを獲得。



【1】日本代表強化:⑤OWS

【戦略2017①】

2020

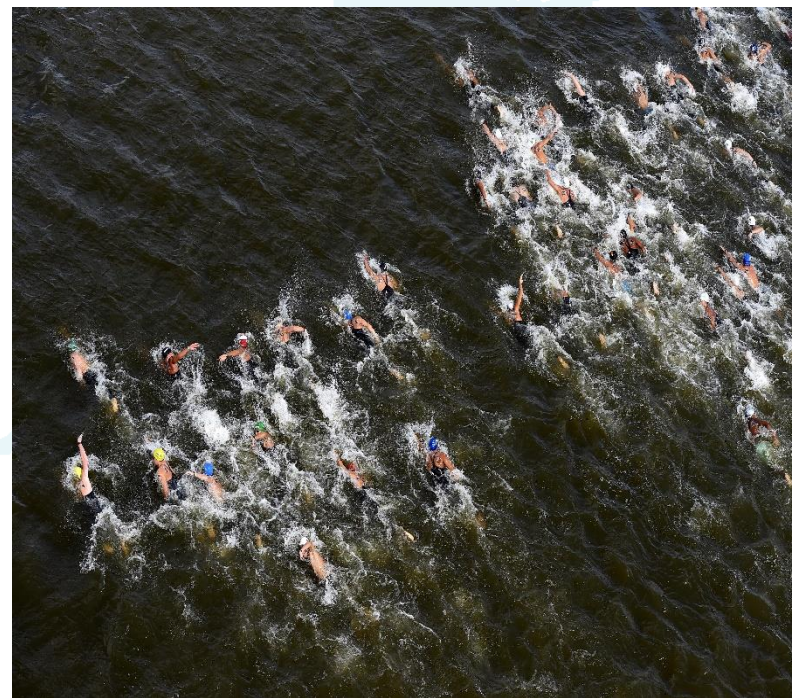
2024

目
標

- ①メダル獲得
- ②フルエントリー

- ①2大会連続メダル獲得
- ②2大会連続フルエントリー

2018年度 主要大会	金	銀	銅	総括
パンパシフィック 選手権	0	0	0	パンパシフィック選手権 では、女子2名入賞も男 子は入賞に至らず。海 外選手の序盤からの積 極性への対応が課題。
世界ジュニア 選手権	0	0	0	次世代強化としての世 界ジュニア選手権では、 個人女子、男女混合リ レーにて入賞。全豪選 手権では、女子で銀獲 得、男女で入賞。
全豪選手権	0	1	0	



【2】指導者・審判

【戦略2017①】

【戦略2017②】

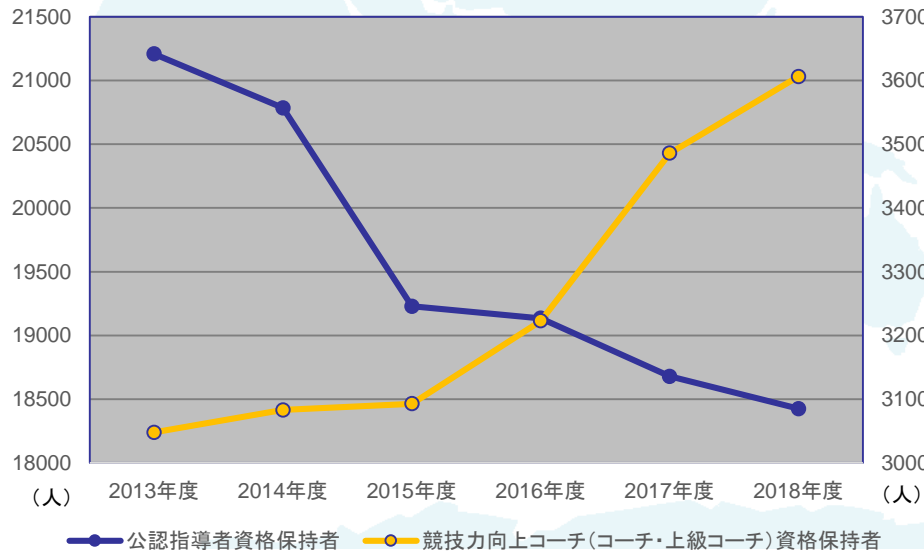
2020

2024

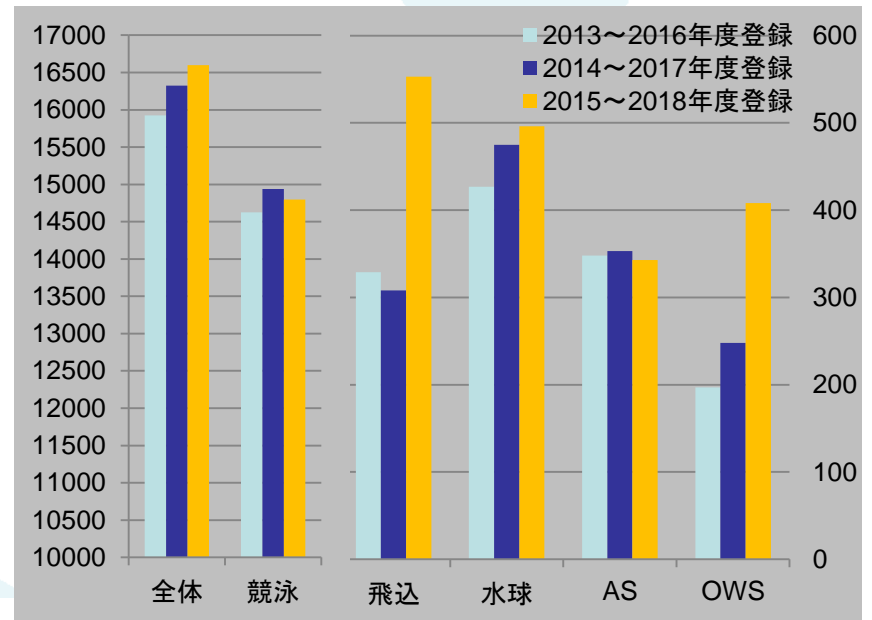
目標
公認指導者：20000人
公認審判員：16000人

公認指導者：21000人
公認審判員：17000人

公認指導者資格および競技力向上コーチ資格保持者の推移



■公認審判員数の推移



(単位:人)

【3】競技会・マーケティング

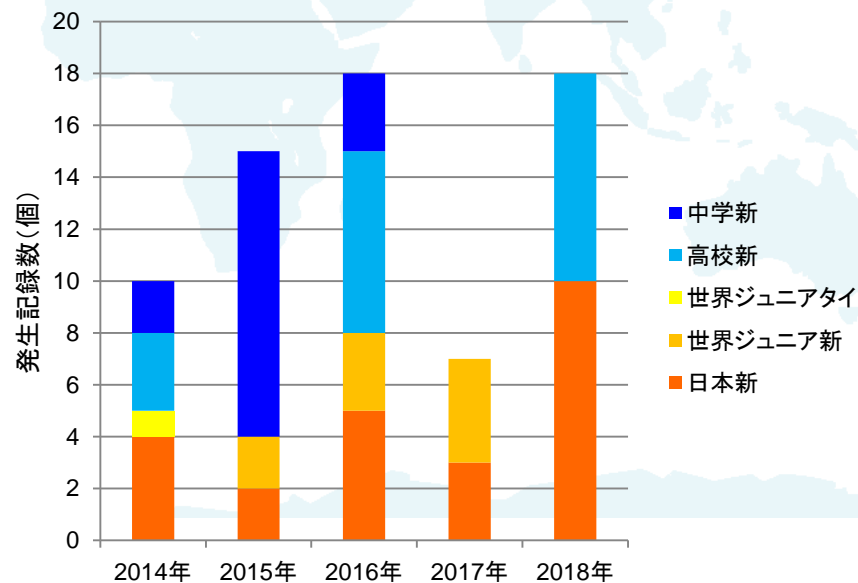
2020

2024

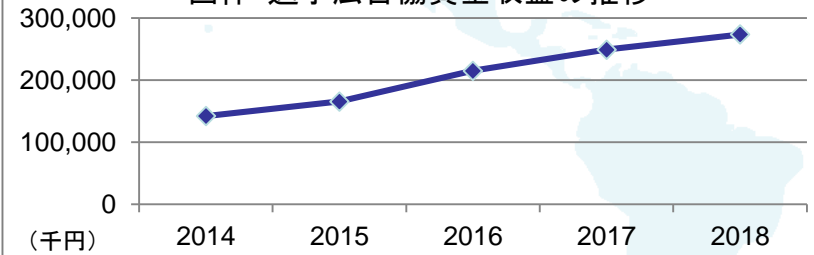
目標 競技会：国内競技会の充実
マーケティング：ブランディング強化

競技会：国内競技会の充実
マーケティング：事業の強化

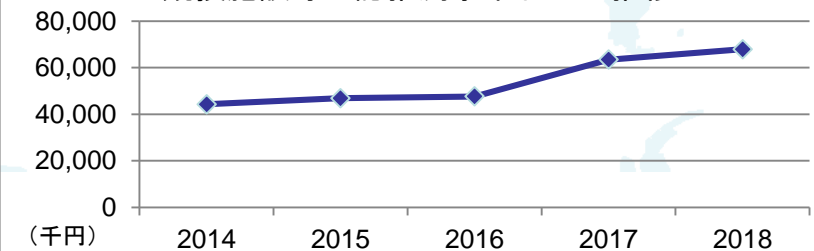
競泳日本選手権における発生記録の推移



団体・選手広告協賛金収益の推移



競技施設等公認推薦事業収益の推移



【4】普及

【戦略2017①】

【戦略2017②】

2020

2024

- 目 標
- ①国民皆泳の実現
 - ②水泳ファミリーの拡大

- ①国民皆泳の実現
- ②水泳ファミリーの拡大

■水泳の回の全国展開

事業立ち上げ

東京辰巳国際水泳場にて開催
(2015年)

第1フェーズ

全9地域ブロックにて持ち回りで開催
*メイン会場の持ち回り開催
(~2024年)

第2フェーズ

全9地域ブロックにて毎年開催
*うち1会場がメイン会場
(2025年~)

メイン会場とサブ会場

メイン会場：日本水泳連盟が主催し、各地域ブロック持ち回りで開催
サブ会場：加盟団体(都道府県水泳連盟)等が主催し、独自に開催



- 2017年度：石川県金沢市
- 2018年度：福島県郡山市**
- 2019年度：愛知県名古屋市
- 2020年度：大阪府大阪市(予定)
- 2021年度：高知県高知市(予定)
- 2022年度：広島県広島市(予定)

■マスターズ国際大会を活用した、水泳人口の拡大

国内で開催される国際大会を通じてマスターズ水泳の認知度を一層高め、生涯スポーツとして水泳をする人口を拡大する。

2021年
スポーツ実施率
65% (目標)

(持続安定期へ)
2030年
国際連合「SDGs」達成(予定)

第2期スポーツ基本計画期間

2017年
スポーツ実施率
51.5%

2018年
第1回アジアマスターズ選手権開催(名古屋市)

2021年
ワールドマスターズゲームズ開催(関西エリア)
2021年
第19回世界マスターズ選手権開催(福岡市)

2017年
スポーツ庁「第2期スポーツ基本計画」策定

1997年
スポーツ実施率
34.8%

2015年
国際連合「SDGs」採択

1997年
第1回ウーマンズ・マスターズ選手権開催(習志野市)
1984年
第1回日本マスターズ選手権開催(東京都)



*スポーツ実施率：成人の週1回以上のスポーツ実施率

【5】組織基盤

【戦略2017③】

【戦略2017④】

2020

2024

- 目 標
- ①組織基盤の強化
 - ②全加盟団体の法人化達成

- ①組織基盤の強化
- ②全加盟団体との理念・使命・行動指針の共有

法人化の達成状況

法人化完了の加盟団体・・・29

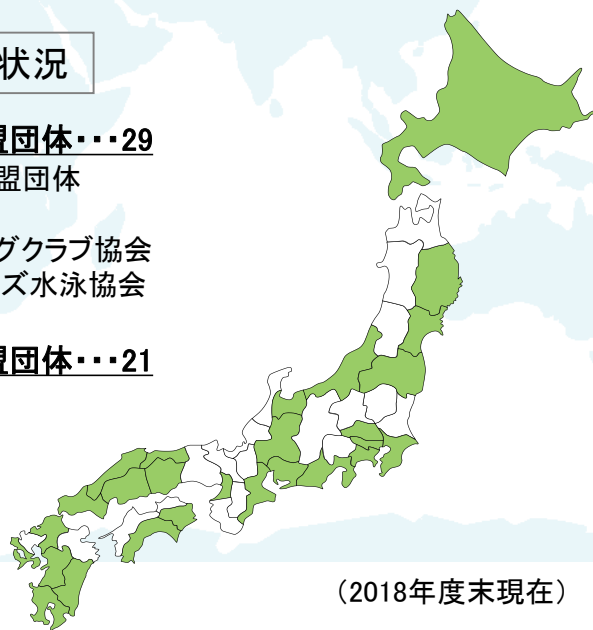
27都道府県加盟団体

+

- (一社)日本スイミングクラブ協会
- (一社)日本マスターズ水泳協会

法人化未了の加盟団体・・・21

法人化完了



(2018年度末現在)

状況に即応した諸規程の策定、改訂および公開

策定

- ・スタートの段階指導
- ・プール水深とスタートの高さに関するガイドライン
- ・プールの基準と安全性に関する裁判例
- ・役員利益相反取引の制限(内規)
- ・印章取扱規程

改訂

- ・約款
- ・処分規程
- ・競技団体及び競技者登録規程
- ・競泳競技会において着用又は携行することのできる水泳用品・用具のロゴマーク等についての取扱規程
- ・競技者資格規則
- ・競技会及び海外交流規則、細則
- ・外国籍競技者登録細則
- ・評議員会運営規則
- ・競技規則(競泳、飛込、AS、OWS、日本泳法)
- ・プール公認規則、設置要領



「スタートの段階指導」および「プール水深とスタートの高さに関するガイドライン」

2019年3月

公益財団法人 日本水泳連盟



センターボールに日の光を!



公益財団法人日本水泳連盟